



島田 恒 議員



地域を担う人材確保について

問 高校卒業生の進路状況について。

答 令和4年度の市内高校卒業生の46・8%が旭市、鉾子市、匝瑳市に就職、39・6%が県内に就職している。旭市雇用対策協議会の進路希望調査によると、市内高等学校3校の令和5年度卒業予定生徒数は245人で進学予定者は87人で35・5%、就職予定者は142人で58・0%。

問 雇用対策としての就職希望者への取り組みと効果は。

答 旭市雇用対策協議会が新年度採用予定者向けに例年4月に「合同企業説明会」を、再就職や転職者向けには10月に「合同就職面接会」を開催し、就職希望者への周知と市内企業のPRをしている。合同企業説明会では、市内にある企業と就職を希望する地元高校生や大学生等の就業マッチングの場として開催しており、本年度は参加企業25社、参加者25

7名であり地元企業への貴重な就業機会として好評を得ている。

企業誘致の取り組みについて

問 企業誘致の実績と産業用地の現況について。

答 鉾数工業団地は昭和40年代から分譲が始まり、現在44社が立地。さくら台の干潟工業団地は平成3年から分譲が始まり、現在6社が立地し、分譲は完了している状況。

問 誘致がもたらす地域への波及効果について。

答 令和5年3月31日現在の従業員数は鉾数工業団地1602人、うち市内在住878人、干潟工業団地562人、うち市内在住304人となっている。

問 今後の企業誘致や既存企業の支援について市長に伺う。

答 地域の特性を生かした新規企業の誘致や既存企業の事業拡大の支援は雇用の創出、税収の増加等、地域経済の活力向上に結びつけるための重要な施策の一つである。企業誘致については、企業の誘引と併せて、土地利用や空き家等の活用、都市計画の見直し等、多角的な検討も重要であると考え、今後も様々な意見をいただきながら、検討したい。

小児医療について

問 市民から子どもの受診で困った経験はあるか意見を集めたところ、「どこに受診したらいいかわからない」といった意見が多くあった。市ではそれについて対応していることはあるか。

答 1月に中央病院を除く市内医療機関に対し、調査を実施し、小児対応の医療機関一覧として市HPに掲載し、市の公式LINEでお知らせをした。

問 今後さらなる小児科不足が懸念されるが、オンライン診療やオンライン医療相談サービスの導入の可能性は。

答 関係事業者からの説明を聞く等して現在オンライン診療について研究を進めている。

医師の働き方改革について

問 医師の働き方改革が始まることで夜間・休日(特に救急外来での)医師不足が懸念される。旭中央病院では引き続き安定

した医療を提供していくために、どのような対応を行う予定か。

答 患者対応を複数の医師で担う、薬剤師等の他の医療従事者が説明を行う、家族への説明を原則平日に行う等の対応をとる。救急外来では、緊急時以外は専門診療科による診療を行わず、当番医が救急外来診療と入院管理を行う予定。

問 旭市としてはどのようなバックアップを行う予定か。

答 適切な受診への理解と協力がやかりつけ医師を持つってもらう等の啓発に努めていく。

警報発表時の避難指示について

問 昨年の台風13号において、高齢者等避難がないままに避難指示となったことについて、対応は適切だったのか。天候が荒れる前の段階で高齢者等避難を出すことはできないのか。

答 当日、大雨警報の発表を受けていたところ土砂災害警戒情報が発表され、避難指示からの発令となった。避難時の危険回避は重要な為、早期の判断に努めたい。

その他の質問事項

○女性視点の避難所運営について



崎山 華英 議員

